

長崎小学校が開校130周年



10月5日に長崎小学校で開校130周年記念式が行われました。

式典では明治15年に現在地に校舎を新築し「長崎学校」「長崎尋常高等小学校」から現在の「長崎小学校」となったことや、現在465名の児童数が昭和7年の50周年記念時には1,500名もいたことなど、130年が経過したことを振り返りました。

児童代表の言葉として6年生の工藤陸君は、「この校舎をこれからの未来へ引き継いでいけるよう、みんなで力を合わせて大切にしていきたい」とあいさつし、式を閉じました。

式典終了後には県警察音楽隊のコンサートや記念講演も行われ、開校130周年を祝いました。

小中学校と中山オリオンコールの音楽会



10月31日、総合体育館で「芸文祭参加音楽会」が開催され、町内小中学校の児童・生徒の金管バンド・吹奏楽の演奏や合唱が披露されました。

この日のために一生懸命練習を積んできたすばらしい演奏や合唱は、会場につめかけた大勢の人に感動をあたえ、盛大な拍手がわき起こっていました。また、音楽会の最後には「中山町オリオンコール」の皆さんが、すきとおった美しい歌声を披露し、音楽会を締めくくりました。

初めての稲刈り体験



10月2日、豊田小学校の5年生が稲刈りを行いました。柳沢地区の田んぼにはえぬき米の田植えを行ってから、観察や草取りをしながら稲の成長を見守ってきました。

初めて稲刈りをしたという児童が多く、先生から鎌のギザギザのほうを思いっきり引きながら稲を刈ることを教わりながら、あっという間にすべての稲を刈り取っていました。

稲刈りを終えた児童たちは「育てるのは大変だったけど楽しかった」「お米を食べるまでに、こんなに手間がかかっていると思わなかった」「これからは残さずに、農家の人に感謝して食べたい」などと話していました。

掃除から何を学ぶ？

中山中で「掃除を学ぶ会」開催



NPO法人「日本を美しくする会」が掃除を通して人の心を穏やかにし、感謝と気づきの心を育むことを目的とした「第88回山形掃除に学ぶ会」の掃除実習が中山中学校で開催され、町内外から370名以上の方が参加しました。

21の班に分かれ、校内のトイレ、玄関、水飲場を2時間にわたり、徹底的にきれいにしました。

男子トイレの掃除は初めてという参加した女性は「最初抵抗があったが、やり終えた時には充実感がありました」と話していました。

中山中学校改築へ向けて建設検討委員会で現在作成中の基本構想。その表紙を飾るフレーズを考えるワークショップが10月23日、中山中学校で開催されました。

「自分たちの学校は自分たちで作る！」を合言葉に、生徒会役員23名が4つのグループに分かれて作業。新しい中学校に対する自分たちの夢、希望、イメージを短い言葉で思いつくままでにできるだけ



新しい中山中学校 改築のテーマは？

たくさん出し合い、イメージをふくらませながら次の4つのフレーズが考え出されました。

「あった〇」
「おもしろいSCHOOL」
「自分の子どもを入学させたいと思える学校」
「Every one home みんなが集まり、みんなが愛せる学校」

この4つのフレーズは10月31日に開催された第5回中山中学校建設検討委員会に報告され、4つすべてが「中山中学校改築基本構想」の表紙に掲載されることになりました。基本構想は12月初旬に策定される予定です。



これまでの中山中建設検討委員会の資料や会議結果は町ホームページの「中学校改築事業」のページでご覧いただけます。



その2日後には「とよっ芋煮会」がグラウンドで開催され、1年生から6年生までの12の縦割りグループに分かれ、芋煮を協力しながら作成。2日前にとれた里芋はきれいに皮をむいて、芋煮に入れました。ネギを最初に投入してしまったり、薪を燃やした時のすごい煙に「目がいたーい」と叫ぶハプニングも多々ありましたが、協力し合っておいしい芋煮が完成。楽しい思い出になりました。



豊田小学校5年生が5月に中庭に植えた里芋が収穫の時期を迎えました。水かけを毎日行ってきたという里芋の茎は児童たちの背丈よりも高く成長し、太い茎を力いっぱい引くと、根っこには里芋がびっしり。初めて里芋の収穫を体験したという児童たちは「こんなにいっぱいいるとは思わなかった」とびっくり。手を土で真っ黒にしながら、里芋を取り、茎と葉に分け、大小いろんな形の里芋がトロコ2台分も取れました。

自分たちで育てた里芋で芋煮会